

## 令和6年度学生議会提案事項の対応方針

番号	議員名	項目名	担当課	質問要旨	答弁要旨	対応方針
1	大口 華 角田 実優 福本 璃桜 (米子北斗)	鳥取県の 人材確保 について	医療政策課	平成18年の鳥取大学医学部医学科地域枠・特別養成枠の導入以来の成果と今後の展望を伺う。また、奨学金の返還免除要件を厳格にし、より多くの医師に県内に残ってもらう具体的な対策を検討してはどうか。	専門医の養成等、中山間地のような医療の効率が悪いところを考えると、どうしても今養成している医師数は必ず必要なんだ、ということ、皆さんと一緒に訴えかけ、今日の質問の趣旨に沿って頑張ってもらいたい。	地域枠医師へのキャリア支援の強化等を進めることにより、引き続き県内の臨床研修医、専門医の育成・確保を図っていく。また、国が本県を含む「医師多数県」の令和7年度医学部臨時定員を削減したことを契機に、有志県や本県医師会等とも連携し、これまで4回にわたり、本県の医師不足の実情を国に訴えたところ、国においても、地域の実情を踏まえて対策を進めるとの当面の方向性が示された。今後も国の動きを注視しつつ、必要に応じて働きかけを行う。
			総合教育推進課	現在は県内に教育学部がなく、教員を目指す生徒は県外に出てしまいそのまま戻ってこない人もいるのではないかと。県外への人口流出を防ぐためにもぜひ、教育学部を復活してもらいたい。	鳥取大学と精力的に交渉を始めたところであり、7月には文部科学省の安江政務官にも直訴させていただいた。国へしっかり要請して結果も出していきたい。	鳥取大学における教員養成機能の再興については、5月のキックオフ会議後、6月から県、県教育委員会、鳥取大学の三者で構成するワーキンググループを設けて協議を重ねるとともに、国(文部科学省)に対して7月と11月に協力を要請した。鳥取大学においては、9月に鳥取大学地域学部等将来計画検討委員会を立ち上げて「地域の人材を地域で育て、地域に返す」仕組みなど、教員養成機能の再興に向けた検討を重ねている。引き続き三者で教員養成機能の再興に向けた取組を進めていく。

番号	議員名	項目名	担当課	質問要旨	答弁要旨	対応方針
			小中学校課	幼少期から鳥取県の様々な仕事を知り、体験できる機会を創っていただき、各職業の実際の魅力を発信していただきたい。	小さい頃から企業で働く人々を間近で見て、体験し、キャリアを考えるような施策を今後も積み上げてまいりたい。	子どもたちに県内の魅力ある企業を見学、体験できる機会を提供し続けられるよう、県教育委員会主催「鳥取のミリオク発見！発信！親子でおしごと体験ツアー」の拡充や「ふるさと鳥取企業読本」及び「とっとり教育ポータルサイト」内「ととりの企業・仕事」の活用等を推進していく。また、「とっとり産業未来フェス」の開催を通して、若者に対しても県内産業の魅力を発信し、中長期的な視点での若者県内定着にも繋げていく。
2	三村 柚妃 中上 柚希 村尾 輝斗 (鳥取商業)	鳥取県をより子育てしやすい県にするための提案	子育て王国課	子どもが体調を崩した時に預ける場所が少なく、仕事を休まなければならないという意見がある。病児保育施設を増加させるために国の支援が必要だと考えるがどうか。	国に要望しているが、国でも病児保育の閑散期の対策も含めた助成制度や補助額の引上げを検討課題としてクローズアップすることになった。これからも国に要求して参りたいし、県でもフォローしていきたい。	令和6年度に病児保育に係る国補助額の拡充が行われたところであるが、更なる補助額の引き上げについて引き続き国に要望する。また、利用者の利便性向上に向けた改善を検討するため、令和7年度に事業者及び市町村と意見交換を実施する予定である。
			子育て王国課	子どもが遊べる公共施設が少ないので、廃校や県や市町村の有休施設を活用して雨の日でも遊べる場所を作るのはどうか。	雨の日でも遊び場を確保できるように教育委員会や市町村、応援して下さる企業と連携していきたい。	県立の鳥取砂丘こどもの国では、雨天時でも楽しく安全に遊ぶことができる設備の整備を進めており、今後も屋内遊具の設置等により施設の充実を図っていく。また、市町村においては令和6年度に国が創設したこども・子育て支援事業債を活用した整備が可能であり、引き続き市町村等と連携して雨天時の遊び場の確保を図っていく。

番号	議員名	項目名	担当課	質問要旨	答弁要旨	対応方針
			高等学校課	私たち高校生にとっては、学校の外で勉強できる場所が圧倒的に足りないと感じている。図書館は静かにしないといけないため、教え合うことができない。高校生同士が教え合いながら勉強出来る場所を作っていただきたい。	放課後の学校が使えるかと思う。今回の議論を各学校に情報提供し、そうした機会確保に今後も努めて参りたい。	令和6年9月校長研修会にて、放課後における図書館や空き教室の活用など、生徒同士が教え合いながら学習できる場及び機会の確保について依頼した。 また、新たに利用可能施設(スタディスペース)を主要駅別に取りまとめで作成し、高校生に周知する。
3	竹村 颯太 (鳥取聾)	災害時における聴覚障がい者の情報アクセシビリティの取組	危機管理政策課	ICT導入により、聴覚障がい者が避難所で安心して過ごせる環境づくりを進め、そうした避難所運営の訓練を実施して欲しい。また、訓練内容について、当事者の意見を聞き、実践的な内容として欲しい。	ICT活用に向けた準備、また、防災訓練での意見反映や障がい者当事者の理解を深めていただくことが有効。避難所での訓練を市町村にも働きかけていきたい。	避難所を運営する市町村に対してICT機器の導入を支援するほか、障がいを持つ当事者に参加いただく訓練の実施について、県・市町村の防災担当者が集まる会議等の機会を捉えて働きかけていく。
			消防防災課	防災士や自主防災組織の方々が、あいサポート精神を学ぶ機会を設けてはどうか。	県が実施するスキルアップ研修等であいサポート運動を学ぶ機会を設けること、支え愛マップ等の作成にあたり、聴覚障がい者の確認や緊急情報を知らせる方法を計画することなど、聴覚障害者協会等とも相談しながら検討して参りたい。	防災士や自主防災組織の方々を対象とした研修等において「あいサポート運動」の意義、必要性及び事例等を紹介し、意識啓発を図っていく。 また、「あいサポート運動研修」や「支え愛マップ」作成等を担っている鳥取県社会福祉協議会と連携して、聴覚障害者協会の意見も聞き、「支え愛マップ」作成等に反映させていく。
4	高梨 ゆい 海老沼 純怜 椎葉 絢都 (境港総合技術)	県内全ての高校にエレベーター設置を	教育環境課	要配慮の生徒が入ってから作るという考え方ではなく、車椅子を使用している生徒等が高校を選ぶときの選択肢が狭まらないようにどの学校にもエレベーターがあることが当たり前の県であることを願う。鳥取県内の全ての高校のエレベーター設置について、所見を伺う。	エレベーター設置と財政的な問題をいかにバランスよく進めていくのかが大きな課題である。ご指摘のあった点を心にとめて学校環境づくりに今後も努めてまいりたい。	学校の施設整備にあたってはバリアフリーを基本とし、車いすや歩行に不自由のある生徒が困らないよう、教室入替等の対応を引き続き行うなど、できる限りの対策の実施に努めていく。

番号	議員名	項目名	担当課	質問要旨	答弁要旨	対応方針
5	永美 綾香 那須 美海 (鳥取西)	人口減少 対策関連 について	人口減少社 会対策課	「鳥取県未来人材育成奨学金支援助成制度」は高校生などの県民に十分に周知できているのか。また、さらなる周知のためにどのような具体策を考えているのか。	作成中のデジタル教材、県政だより等の県の広報媒体、テレビ等も通じて、しっかり周知を図っていきたい。	高校生等の若者への制度周知のため、とりふるアプリへの掲載や、とっとり企業紹介フェア、県内外大学等での就職関連イベントでのPRを実施しているが、さらなる周知を図るため、新たに、はたちのつどい、県政だより1月号、各種新聞、テレビCMでのPRを実施している。 また、対象業種を公務員を除いた全業種に拡大することについて、令和7年度当初予算案に盛り込むこととしている。 今後も引き続き、若者への周知を強力に推進していく。
			教育人材開 発課	高校を小学校並みの30人学級にしてはどうか。県だけでの実施が難しければ、国にも積極的に働きかけていただきたい。	現時点では難しいところがあるが、学級減や学級定員減を視野に入れながら、また担任のあり方、生徒への関わり方をより一層工夫しながら鳥取らしい手厚く温かい教育指導が展開されるように努めてまいりたい。	少人数学級の実施については、令和6年3月に策定した「令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本方針」に示しているとおり、まず、その効果や財政負担を十分に検証し、慎重に検討を進め、その上で、国への要望実施について検討していく。
6	川島 優里 (米子松蔭)	学校での 手話の学 習の導入 について	特別支援教 育課	手話を学ぶのが当たり前環境を作るため、学校で手話を授業の科目として導入してはどうか。	全ての校種で授業科目設定というのは難しいところではあるが、特別活動や総合的な学習の時間での広がりを推奨してまいりたい。	全ての校種で手話の授業科目を設定することは難しいが、引き続き、特別活動や総合的な学習の時間等での広がりを推奨していく。
7	中口 優太郎 山根 琉太郎 見生 美優羽 (鳥取東)	高校生の 自己啓発 (Self- developm ent)休暇 制度の導 入につい て	高等学校課	高校生の社会体験を増やし、将来の夢や職業、興味のあることについて、知見を広げる機会を作ること目標に、高校生の自己啓発、セルフディベロップメント休暇制度を導入してはどうか。	本県では体験的活動休業日を設けているので、まずはそういう期間をしっかり活用してもらうことも1つだと思うが、長野県の私立高校や他県のラーケーションの取組をしっかりと研究しながら、本県の中でもそうした取組が進めていけないか今後の研究にあててみたい。	体験的活動休業日の有効活用を促すとともに、長野県の私立高校や他県のラーケーションの取組を調査し、本県においてそのような取組を進めることができないか研究を行う。

番号	議員名	項目名	担当課	質問要旨	答弁要旨	対応方針
8	青木 環央 河野 遥香 (日野)	県外生徒募集制度における生徒の生活環境の充実・支援について	高等学校課	高校や鳥取県の魅力をPRするため、県外出身の高校生と平井知事が一緒に地域や高校の魅力を盛り込んだPR動画を作成し、各校やSNS等で発信してはどうか。	鳥取の高校の良さを発信していく手段として、地域みらい留学やSNS等による動画発信、これをさらに進めることで県外生募集の取組を進めてまいりたい。	地域みらい留学への参加や県外生徒募集統括コーディネーターによるSNS等を通じ、各高校の魅力を更に発信してまいりたい。
9	坂本 ゆい 眞壁 明日架 (倉吉東)	鳥取県中部地区を宿泊地として盛り上げるために	交通政策課	現在倉吉市の各バス停にはバスの現在地等が分かるQRコードが貼ってあるが、同じようにタクシー版のQRコードをバス停に貼ってはどうか。	駅、宿泊施設、観光施設等にQRコードを配備した方がご提案いただいた趣旨につながるのではないかと思います。いい提案をいただいたので、関係者と話し合い、実現するように取り組ませていただきたい。	令和6年9月から県内タクシーの約3割の159台にタクシーアプリ『GO』が導入されたことから、県ではアプリの普及促進のため、400超の飲食店、宿泊施設、観光案内所等にQRコードを掲示するスタンドポップやチラシ、カードを設置した。今後も観光客等の利便性向上のため、アプリの普及促進に取り組んでいく。
			小中学校課	中部の宿泊者を増やすために、閑散期に小中学校の授業の一環として自然の中でのアウトドア体験や調理体験等の長期宿泊体験を導入してはどうか。	非常に貴重な体験だと思うが、保護者の経済的な負担の部分が絡む部分があるので、どんな形でできるのか検討して参りたい。	県内の小中義務教育学校の宿泊体験は、大山青年の家、船上山少年自然の家などを活用して行われているところであり、家庭の経済的負担への配慮、ホテル等の閑散期と学校年間計画との調整など課題があることを踏まえ、どのような形で実現できるか検討していく。